

工藤町長 退任のあいさつ

本年3月5日をもちまして、任期満了により山都町長を退任いたします。平成25年に町長に就任して以来、何とか町政を前に進めることができたのも、ひとえに町民の皆様のご支援・ご協力の賜物であります。日頃からのご厚情に心より感謝申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震、6月の豪雨災害など終生忘れることのできない特別な年でした。被災した公共施設については、応急本工事に取り組みなど早期の復旧に努めていきます。農地等の災害箇所については、復旧工法・発注方法を工夫し、一日も早い復旧を目指しているところです。宅地等の災害箇所についても復興基金などを活用し、被災者の負担を少しでも軽減し、早期に復旧したい考えですが、所管する県の指針が固まるまでに、もう少し時間がかかるようですので、いましばらくお待ちいただきたいと思います。

私は、当初から「やまトーク」という名を冠して町政座談会を実施してきました。これは、公約としていました「町民の皆様との対話による町づくり」を具現化したもので、広

大な面積を有する山都町のそれぞれの地域課題・生活課題を直接うかがい、その時いただいたご意見を町の施策に反映させることが目的です。皆様のご協力により退任まで継続して実施することができ、その成果としてRKKのデタポンの活用や光通信の基盤整備など施策として取り組むことができました。皆様のご協力にお礼を申し上げます。

山都町の一番の課題は、急激な人口減少です。

就任当初から進めている集落営農は、その人口減少対策を念頭に置いたものでもありません。農地を守り、ひいては集落を守るために、是非とも地域で取り組んでいただきたいものですが、その過程で農業機械の共同利用、営農の組織化などを含め、集落で地域の農業の将来を話し合っていたことが、とても重要であると考えています。本町では初めてとなる農事組合法人が、昨年、清和地区高月で設立され、今年は、矢部地区の長田と田小野に農事組合法人を立ち上げていただきました。いずれの法人も、小規模経営ながら確実

に体力を付け、徐々に耕作面積等を拡大させ、経営を安定させていく方針です。この手法は、必ずや中山間地集落経営の模範になると期待しています。

また、この町の将来を担う子どもたちが元気に育っていく環境整備に最も力を入れました。出産祝い金の増額、医療費の18歳までの無償化、さらに本年4月に開設する統合保育園に、子育て支援センターと病後児保育室を併設し、福祉サービスを提供するなど、子育て支援策の充実に努めました。

加えて、昨年7月に公設「山都塾」を開講しました。町の子どもたちが、地域の歴史・自然・文化などに興味を持ち、さらに、この町を愛する子らが増えることを願うことです。

特に知ってもらいたいのは、この町の基礎がつくられた中世の歴史です。阿蘇社大宮司が武士団の長として活躍していた頃、熊本平野部に勢力を拡げるにあたり、現在の矢部高校付近に本拠として「浜の館」を設けたことが、この地域一帯の農地の開発や文化の発展などに大きな影響を与えたことです。こうした歴史にみられるように、この町は、豊かな歴史・文化や九州一といわれる自然を有しています。この素晴らしい環境で子ども達も自信と誇りを持って学び育ち、やがて親となり郷土を守っていく姿を思い浮かべます。

本年4月に開館する「山都町文化交流拠点施設」は、この町の風土と成り立ちを説明し、特徴ある素晴らしい文化である八朔祭の大造り物や、清和文楽、蘇陽地区の神楽など豊かな山の都を生み出した「山都の歩み」を紹介します。この施設は、先に述べた「山都塾」の講座に十分活用できますし、観光入り込み客の増大にも大きく貢献するものになると思っています。この名のとおり、町の拠点として皆様から愛される施設になることを期待しています。

これらの教育・まちづくりに関する財源は、ふるさと寄付金によりいただいたお金を使用することとしています。平成26年度までは百万円程度で推移していましたが、昨年度から広報の充実やクレジット決済の導入など寄付される方の利便性を向上させたことにより、寄付額は、1億円を超え、本年度は現在高で1億7千万円に達しています。今後も大切な財源になることは間違いありません。

この4年間、町長職を通じ、いろいろな形で「この町を何とかしよう」と努力くださる多くの志高き町民の皆様と出会えたことは、私の宝となりました。町政の推進に対し、ご理解と大きな力添えをいただいたことに改めてお礼を申し上げますと共に、山都町のさらなる発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。退任にあたってのご挨拶といたします。

工藤秀一

